

光 彩 だ よ り

2015年 冬号 (2015. 12. 3 発行)

- ★就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所 京都市朱雀工房 ・ ・ p 1
- ★就労継続支援B型事業所 西山高原工作所 ・ ・ p 2
- ★就労継続支援B型事業所 ワークステーションかれん工房 ・ ・ p 3
- ★京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」 ・ ・ p 4
- ★こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」 ・ ・ p 5
- ★グループホーム賀陽、グループホーム山ノ内、グループホーム光 ・ ・ p 6
- ★相談支援事業所「こうさい」 ・ ・ p 7
- ★訪問介護ステーション 光彩 ・ ・ p 8
- ★府庁 ゆめこうば ・ ・ p 9
- ★法人からのお知らせ ・ ・ p 10,11

《発行》社会福祉法人 京都光彩の会（発行責任者／上村啓子）

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30 京都市地域リハビリテーション推進センター 1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520

E-mail : info@kyoto-kosainokai.jp URL : <http://kyoto-kosainokai.jp/>

移転は終了しましたが、今後の拠点の確保が課題

私も京都光彩の会の運営にいつもご支援、ご協力をいただきありがとうございます。平成 27 年 9 月 24 日に京都市地域リハビリテーション推進センターへ移転いたしました。1 階の交流サロンと病院の薬局を作業スペースとなごやかサロンの活動に使用させていただき、心理相談室を共用の相談室に、会議室を職員室に、5 階の病室を会議室としてお借りして活動しています。準備や慣れていただくのにご利用者に負担をかけて申し訳なく思っています。日常業務を抱えながら職員もよく頑張ってくれました。まだ改善しなければならないところもありますが、大分落ち着いてきました。開放的で明るく、また建物の目の前が四条御前のバス停で交通至便でよいです。

しかし、今後予定されている京都市こころの健康増進センター、京都市地域リハビリテーション推進センター、児童福祉センター合築化の建物への入居は確約されていません。ご利用者やご家族は、「この後はどうなるの？」と不安そうに問いかけをされています。これまで京都市こころの健康増進センターと一体的になって精神保健福祉の向上のために就労や生活支援、地域移行等の推進に励み、拠点として活動してきたという自負はありますが、どなたにもその意義や功績を認めていただき、今後の活動に期待していただけることが必要かと思えます。多様な利用者のニーズに応えられるようより添って支援を行うという原点に立ち返り、よい支援をめざして参ります。また今後の展望をしっかり持って事業をすすめていこうと思っております。より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 京都光彩の会 統括施設長 上村啓子

京 都 市 朱 雀 工 房

● 近況報告

朱雀工房は平成 27 年 9 月 24 日より京都市地域リハビリテーション推進センターに移転いたしました。移転に伴い、利用者及び関係機関等の皆様には大変お世話になりありがとうございました。移転から早 2 ヶ月が経ち、おかげさまで利用者も新しい環境にも慣れ、あわただしくも充実した毎日を送っています。平成 27 年 11 月現在の利用者数は、就労移行 9 名、B 型 15 名の計 24 名となっています。就労移行では、訓練プログラムを行いながら、職場実習やハローワークへの登録等、着々と就労に向けて動かれています。B 型では、今年度から新しく入った作業にも慣れ、意欲的に取り組まれています。また以前より計画していた授産製品は、10 月から裁縫の先生をお招きして商品を開発中です。まだはじめたばかりですが、商品化を目指して頑張っていると思います。



☆製作中のメガネケースです☆

レクリエーションではサーカス観賞や茶話会・DVD 観賞等を行いました。移転して新しい場所になりましたが、今後も利用者方と協力しながら、作業・レクリエーション・授産製品などの充実を目指して取り組んでいこうと思います。



☆リュウコウの作業には可愛い小物もあります☆



☆就労に向けプログラムを実施しています☆

● 利用者募集！！（就労移行）

- ★ 就労を考えておられる方
- ★ 就労に向けての準備をしたい方
- ★ 朱雀工房に興味を持たれた方

是非ご連絡下さい

見学も受け付けています！！

● 新人職員紹介

～新人職員をご紹介します～

平成 27 年 4 月 1 日付で京都市朱雀工房に採用されました、“齋藤（さいとう）衣舞（いぶ）”と申します。卒業後すぐの就職ですので、皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、毎日笑顔を絶やさずに頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

（朱雀工房 齋藤）

平成 27 年 4 月 1 日より、京都市朱雀工房で働かせて頂いております、都竹（つづく）桃子（ももこ）と申します。以前は同法人の支援センターで勤務しておりました。就労支援は 1 年目ですので不慣れなことが多いですが、力をつけていきたいと思っております。よろしくお願い致します。（朱雀工房 都竹）

西山高原工作所

まわりの空気や景色が少しずつ秋めいてきました。季節の変化を感じる話が聞かれるようになってきていますが、所内ではいつものように日々穏やかな空気が流れています。その様子をお伝えさせて頂きたいと思います。

— 作業風景 —

私たちは多岐にわたる作業を行なっていますが、ありがたいことに年々企業の方からお受けする作業の種類等も増えてきました。それに伴って毎日行なうミーティングの進め方や工程の工夫も少しずつ変化しています。

以前から通所時間の違う人も誰でもが作業の輪に入れる環境作りを進めていますが、最近は作業班のノートにそれぞれの方が進めていく内容を書くだけでなく、共有しておかなければいけないことや、みんなで決めたことを記録していきます。日によって顔ぶれが違うので、何度でも朝と昼のミーティングで繰り返し伝えますし、時間帯の違う人にも、全員手を止めノートを見てもらい説明を補足したりして「作業に携わる全員が分かった」ということを大切にしています。

自分の行なった工程は確実に見直すようにして進めています。作業時間内にただ数をこなせばいいのではなく、次の工程を担う人達がやりやすい材料づくりを行なう。形がバラバラだったりズレが起こってないかを自己点検の上、スタッフの確認も交えながら進めていっています。

また作業をしている最中に、袋を折る作業をしていて、次の工程はハサミだな…とっていると、どこからかハサミの入っている缶が「はい、どうぞ」と現れます。タイミングの良さにテレパシー？

と思えるほどで、同時に嬉しくもなります。最近、そういう光景を見かけることが多くなったと感じています。ミーティングや日々のやりとりのなかで、自分のことだけではなく、周りでは何の作業をしていて必要な道具はなになのかも自然に気づけるようになってきたのだと思います。

これからも、穏やかな雰囲気を保ちつつ、量や速さではなく、ゆっくりでも着実に作業をし、助け合い一人一人が社会的な力をつけながら「西山高原工作所に通って良かった」と言って頂けるようにしていきたいと思っています。

— 恒例のとりくみ —

所内では毎年手描きのオリジナル年賀状カタログを作っています。ただいまご注文を受け付け中です。メンバーの手描きのイラストをデザイン化しています。来年はサルということで、写実的なものだったり愛嬌のあるものだったり、いろんなサルが描かれました。メンバーは本当に真剣に作業に取り組んでいます。これからも西山高原工作所を何卒よろしくお願い申し上げます。併せて年賀状のご注文もよろしくお願いいたします。

（ご注文受け付け締切：平成 27 年 12 月 15 日。
詳しくはお電話下さい。カタログをお送りします。
電話番号 075-203-2126）



ワークステーションかれん工房



☆最近のかれん工房☆

かれん工房は、就労により卒業されたメンバーさんがおられ、平成 27 年 11 月現在の登録者数は 18 名となっています。毎日協力して菓子詰めや、店・駐車場等の清掃、調理、自主製品作り等を行っています。新しいメンバーさんを随時募集しています。かれん工房ってどんな所だろう？という方がおられましたら、ぜひ一度お問い合わせ下さい！！（かれん工房 斉藤）

☆U S J へ行きました☆

平成 27 年 11 月 6 日、所外レクで U S J に行ってきました。合計 17 名の方が参加されましたが、久々の遠出レクで U S J は初めてという方も多く、事前に担当職員とメンバーさんとでアトラクション等の下調べをしたり、皆さんとても楽しみにされていました。当日は天気もよく、気温も 11 月にしてはとても温かく過ごしやすかったです。2 組に分かれアトラクションに乗ったり、ショーを鑑賞したり、ショッピングをしたり。皆さん満喫されていたように思います。帰りの電車では疲れ切った様子の方もおられましたが、皆でとても良い思い出が作れたと思います。（かれん工房 高原）



U S J の感想

「遊園地は 20 代の頃から何十年と行ってなかったんで、感激しました」「まさか行けるとは思わなかったんで、楽しかった。また行きたいです」「大勢で行って待ち時間に話をして待ったり、写真を撮れたりして楽しかったです」

～新メンバーが加入しています～

かれん工房にお世話になって 8 カ月になります。色々作業工程がありますが、スタッフさんやメンバーさんに丁寧に指示してもらって有難いと思っています。私はかわいいラッピングや梱包の作業が特に好きです。これから一般就労に向かって頑張りたいので宜しくお願いします。

（かれん工房 M）

愛情溢れるスタッフさんと、親切なメンバーさんに囲まれ 1 日 1 日を一生懸命ポチポチと頑張れています。病気にならなかつたらこんな素敵な人たちとは出会えなかつたかもしれません。午前中の調理を頑張って極めるのが夢です。楽しみ、喜び、感謝、愛、そんな毎日を夢見て！！

（かれん工房 及川）

～新しい職員からの挨拶～

平成 27 年 9 月からアルバイトとしてお世話になっております、龍谷大学大学院修士課程 1 回生の濱田です。皆さんに教わりながら少しずつですが、スタッフの方もメンバーさんも和やかな雰囲気、毎回楽しくお手伝いさせていただいています。日々学ぶことが多く大変勉強になっています。これからもよろしくお願い致します。

（かれん工房 濱田雅代）



京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」 こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」

■ 京都市障害者 24 時間相談体制構築モデル事業の委託による実施（障害者地域生活支援拠点の設置）について

今年度（平成 27 年度）より取り組んでいる新規の事業について簡単に紹介させていただきます。障害福祉計画の、第 4 期計画（平成 27 年度から平成 29 年度の 3 年間）の策定に当たっては、「障害者の地域生活の支援」を、成果目標として掲げていくこと、具体的には、障害のある方の高齢化・重度化や「親亡き後」を見据え、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、様々な支援を切れ目なく提供する地域生活支援のための拠点を整備することとされています。京都市においては平成 27 年度に障害者 24 時間相談体制構築モデル事業を実施し、障害のある方における一層の安心の確保に着手しながら、ニーズの精査を行い、その後の障害者地域生活支援拠点のあり方を検討していくこととされており、具体的には、支援センター「なごやか」が障害者地域生活支援拠点を設置し、土日祝日・年末年始の開所を行うこととなっています。

1. 障害者地域生活支援拠点の実施方法としては以下の内容となります。

- * 土日祝日・年末年始の 11 時～19 時（平日は障害者地域生活支援センターとして開所）、ただし、次の時間帯は電話対応のみ。（携帯電話での対応による）
- * 土曜日及び日曜日（第 3 日曜を除く）の 16 時～19 時は電話対応のみ
- * 第 3 日曜日、祝日及び 12 月 29 日～1 月 3 日の 11 時～19 時は電話対応のみ

（京都市中部障害者地域生活支援センターの実施地域（上京区、中京区、下京区及び南区）

2. 当面の対象者像については以下の通りです。

緊急時に調整等の支援が必要な単身世帯又は高齢の保護者との 2 人世帯等のうち、下記 (7) 又は (4) に該当する方で、障害者地域生活支援拠点に対する個人情報の提供に対象者の同意があることとなっています。

(7) 短期入所等の福祉サービスを利用したことがあり、支給決定の目途がある方

具体的には、土日祝日・年末年始の緊急時に、利用したことがある福祉サービス事業所への利用相談に繋げることができる方を想定。

(4) 緊急連絡先が確保されているが、その連絡に支援が必要な方

具体的には、土日祝日・年末年始の緊急時に、緊急連絡先に連絡することで対応に繋がるが、その連絡を自らすることができない方を想定。

3. 対象者の選定と対象者の同意の上で、対象者リストに挙げることについては、福祉事務所、保健センター、障害者支援センターにて行うこととなっています。

4. 障害者地域生活支援拠点の設置に加えて、24 時間の体制を構築していくための相談受付電話の設置については、改めてお伝えされとのこと。

5. 支援センター「なごやか」においては、平成 10 年の開設以来、土日祝（平成 26 年度以降は土日）（いずれも年末年始、第 3 日曜を除く）の開所を行ってきました（開所日：月～金曜日 9 時～19 時、土・日曜日 9 時～16 時、休所日：第 3 日曜日、祝日、年末年始）。

これまでの取り組みの上で、新たな事業の枠組みの中で、新たに支援を必要とされる利用者に関わって、微力ながらも役割を精一杯担っていきたいと考えています。何卒よろしくお願い致します。
(藤井)

■ 京都市精神障害者地域移行・地域定着支援事業

ピアサポートの取り組みについて支援センター「なごやか」では、平成24年度から5名のピアサポーターの皆さんと地域移行支援に取り組んできました。皆さんは介護・OA講習の受講生で、退院支援に関心がありピアサポートの養成講座を受講された方々です。平成25年度には長期入院者で地域移行支援事業を利用して退院された2名の方が加わり活躍されています。活動場所は病院や大学、研修会等での体験談の発表、精神科病院で行われている退院支援プログラムへの参加等があります。年々活動場所は増えており、とくに最近では地域移行支援を利用された方の体験談を発表する機会が増えています。同じ長期入院を体験した者同士だからこそ理解できる不安や戸惑い、退院した時の喜びや地域生活の楽しさなどについてメッセージを送り続けています。またピアサポーター自身にも仕事へのやりがいだけでなく、自己の体調管理やコミュニケーション力を高めるなどの相互作用があります。今後の目標は、病院内の様々な職種と連携し、患者さんと病院や地域を繋いでいけるような活動を目指したいと思います。(田上)



■ こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」

平成27年9月24日から、京都市地域リハビリテーション推進センターの一部を借りての運営となりました。場所は四条御前通りの交差点にあり、バス停は目の前、お弁当屋さんやスーパーも近く、便利です。利用されている方の中には、周辺のお店で買い物して、またサロンに戻ってこられる方もいます。日当たりの良い室内からは車や人の往来も見え、気分も明るくなります。以前の建物の時と比べ、スペース的には少し狭くはなったものの、立地面等環境の良さがそれをカバーしていると思います。移転に伴う変更点として、①シャワーと洗濯機が利用できなくなった。②朱雀工場の作業終了後にその場所がサロン交流スペースに切り替わるようになった。③敷地内全面禁煙となった。…等、少し不自由さを感じてしまうこともあるかもしれませんが、お弁当の提供や合唱団グラス、当事者会の活動等に変更はありません。皆様のご利用をお待ちしております。(有瀧)



新任職員紹介

平成27年4月より、支援センター「なごやか」で勤務しております“高瀬加帆(たかせかほ)”と申します。入職してから数か月が過ぎておりますが、わからないことが多く、先輩職員の方々に教えていただきながら、日々業務に携わっております。なかなか教えていただいた通りにできませんが、学んだことを少しずつ自分のものにして、利用者の方や法人に還元していきたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。(高瀬)

グループホーム 賀陽 グループホーム 山ノ内 グループホーム 光

■ グループホーム専門部会

京都市の中部圏域を中心にグループホーム（以下GH）事業を運営する法人が集まり、平成25年12月から「グループホーム座談会」を開催して参りました。これまでに8カ所のGHを見学し、法人運営に関する情報交換や職員同士の交流を図ってきました。その「グループホーム座談会」が、平成27年4月から京都市中部障害者地域自立支援協議会の「グループホーム専門部会」として改編されました。GHを取り巻く環境は近年大きく変化し、GHとCH（ケアホーム）の一元化や消防法の改正など、ホームで暮らす障害者の地域生活に大きな影響を与えています。専門部会となったことで、グループホームに関する様々な問題解決の場としてはもちろん、支援者の技術や意識の向上、地域への情報発信に向けて、より積極的に取り組んでいくことが求められています。（田上）

■ グループホーム学会 全国大会 in 京都

平成27年7月11日、12日に日本グループホーム学会の全国大会が京都で開催されるということで、当法人のGH職員も実行委員として参加しております。

今回の大会では様々なテーマに沿って講演やシンポジウムが行われました。GHの運営に関わる面では、GHスタッフの人材確保・育成について北海道の“はるにれの里”、京都の“ハートフルトポス”から実践報告があり、スタッフのモチベーションを維持する仕組みづくりについてお話がありました。また、暮らしと意思決定支援についてのシンポジウムでは、実際GHに入居されている

当事者の方を交えて議論がなされ、私自身が普段の支援を振り返る機会にもなりました。実行委員という立場としても、他府県からお越しいただいた参加者や多くの方と接することができ、とても良い経験となりました。（清水）



新人スタッフ紹介



平成27年9月末よりアルバイトで勤務している出口（でぐち）聖人（まさと）です。大学院に在籍しておりアルコール依存の方の地域生活支援と新たなシステムの構築（提言）をテーマに研究しています。GHの勤務は生活支援ということで、本人の“生活”を生で見、そこにかかわっていくという貴重な経験をさせてもらっていると思います。以下に私の大切にしていることや抱いている思いについて記載させていただきます。私は先入観をできるだけ排除するため、はじめのうちはカルテや記録をできるだけ見ないように心掛けています。もちろん記録等に目を通す必要性・重要性は理解していますが、まずは出会った人の姿や会話等のかかわりを通して、自分の目で、耳で、肌で感じ得た情報を大切にしたいと思っていますからです。また、利用者のニーズを見つけ、本人の希望や想いを尊重し、“その人らしい”日々の生活を送ることができるよう力になりたいです。至らない点多々あるとは思いますが、利用者に向き合い、寄り添い、ともに悩み・考え、成長していくことができるように一生懸命精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。（出口）



相談支援事業所「こうさい」

相談支援事業所「こうさい」は、“誰もが人生の主役になること”をモットーに、障害福祉サービス等の利用や調整、日常生活における相談援助などの計画相談支援（※1.）を行うため、平成25年12月に開所しました。

開所当時は職員全員が他事業所との兼務である非常勤体制をとっていましたが、利用者の方が増加したことに伴い、平成27年8月より、管理者(相談支援専門員との兼務)が交代し、常勤として配置されることになりました。職員体制は管理者1名（相談支援専門員と兼務）、相談支援専門員2名の3名体制であり、開所時間は、平日の9時から17時となっています。

現在「こうさい」の支援対象者は、当法人（社会福祉法人京都光彩の会）事業所の利用者の方が中心となっていますが、可能な範囲で当法人事業所を利用されていない方のご相談にも応じていく方針です。

平成24年の制度改正により、障害福祉サービスを受ける全ての方に計画相談支援を提供することになりました。しかし、計画相談支援がどういうものなのか浸透しておらず、利用者の方からは、戸惑いの声も聞かれます。そのような戸惑いに寄り添いながら、当法人の理念のもと、利用者の方の希望する生活、より豊かな地域生活へと近づいていけるような計画づくりを心がけていきたいと思っています。

相談支援事業所「こうさい」 萩原

※1. 計画相談支援 … 障害福祉サービスなどを利用する方に、サービス等利用計画（ケアプラン）の作成や、サービスの利用状況の検証及び計画の見直し（モニタリング）を行います。



訪問介護ステーション 光彩

平成 27 年 4 月に介護保険改正で要支援保険外しや介護報酬引き下げがあり、平成 27 年 8 月には 1 割負担だった利用料が、一定所得の利用者には 2 割負担に引き上げられ、居住費・食費負担への資産要件の導入が始められました。京都社会保障推進協議会介護部会がおこなった 2015 年介護報酬改定影響アンケートでは、「経営を後退せざるを得ない」と回答したところが 67.6%を占め、「現状維持」23.5%、「改善する」3.9%、「無回答」5%という結果が出ました。また、京都ヘルパー連絡会が実施した要支援者の 213 事例調査では、「ホームヘルプが外されたら精神状態が悪くなる」という人が 69.1%を占め、ヘルパーの支えが、いかに利用者の生活を支えているかが伺えます。

新しい総合事業の構成として「介護予防・日常生活支援総合事業」の『緩和基準サービス A』という事業では、80 年代にタイムスリップしたかのような考え方が出てきています。ヘルパーが行う家事援助、生活援助は主に「掃除、洗濯、調理、買物」といった内容のため、80 年代にヘルパーは誰にでも出来る仕事とされていた歴史があります。しかし、他の方の家の中で家事をするということは「ただ家事をする」だけでは上手くいきません。他の方の要望を聞きながら家事をこなすには、コミュニケーション労働としての介護が必要になります。言語的コミュニケーションだけでなく、プロとしての非言語的コミュニケーションスキルが必要な現場ですから、新総合事業がいかに不備なものであるかが分かります。

現在、訪問介護ステーション光彩では 7 名のヘルパーが活躍しています。その大半は、心に病を抱えた経験のある人達ですので、利用者さんに対して、とても繊細なセンサーで様子を察知し、無理強いくることなく、ヘルパーのみで勝手に進めることなく、利用者ヘルパーと一緒に共同実践、自立支援が行われています。光彩ヘルパーの皆さんはとても真面目な人が多く、毎月の勉強会参加は当たり前、外部研修にも積極的に参加して、日々勉強されています。利用者さんのわずかな変調にも深く考察し、…時に、深く考えすぎでは？と思うくらい真摯に仕事に励んでおられます。この熱心なヘルパーさん達に支えられながら細々と運営しています。ヘルパーさんも利用者さんもまだまだ少なく、課題の多い事業所ですが、一步ずつ、少しずつでも地域に住む利用者さんに求められる在宅生活の担い手になれるような、そんな事業所になっていきたいと思っています。利用者さんにとっても、ヘルパーさんにとっても、豊かな人生の一コマになれるような事業所になっていきたいと考えています。ヘルパーさんあつての事業所を今後も大切に守っていききたいと痛切に思っています。

今後も皆さまの温かいご指導ご鞭撻を賜り、日々精進に励みますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

管理者 山下理恵子

募 集 中 !!

登録ヘルパーさんを募集中です！

ヘルパーさんのお力を心からお待ちしています。

府 庁 ゆ め こ う ば

希望の一步

「ゆめこうば」は「平成 25 年度府庁ゆめこうば推進事業（精神障害者）」として障害者雇用を推進するために京都府庁西別館に開設され、2 年半が経ちました。府の障害福祉支援課をはじめとして「ゆめこうばに頼もう！！」と声を掛けて下さり、事務業務が増え、たいへん嬉しく思います。そして、平成 27 年 11 月 1 日から一名、民間企業への就労が決まりました。ゆめこうばから初めての就職です。ゆめこうばで経験したことを活かし、自信を持って働いてほしいです。

自分の課題に向き合っていくと、辛く感じて、逃げ出したくなる時もあるかもしれません。そのような時こそ、支援者と一緒に考えて、一人一人ひとりのペースで課題に対する対応策を考えていくことが、次のステップにつながるのだと感じています。ゆめこうばが、自分を見つめ直せる場所、次への一步を踏み出せる場所になっていくようにサポートしていきたいです。

ジョブパートナー磯見友絵

京都府庁の西別館
3階にあります！！



畳の場所は休憩時
に使っています☆

職場風景です。宛名ラベル
作成やデータ入力、封入作
業など行っています♪



法人からのお知らせ

●障害者ワークフェアで京都市朱雀工房が優良事業所表彰を受けました

平成 27 年 9 月 2 日（水）にホテルオークラで開催された障害者ワークフェアにおいて京都市朱雀工房が就労を推進しているということで障害者就労優良事業所表彰を受けました。さらに就労支援を促進していきたいと思います。

●OB 会を開催しています

京都光彩の会が運営する事業所を利用した OB の方、職業訓練修了生を中心にして、互いに近況や得意なこと、心配や気になること、聞いてみたいことなどを話しながら元気になることをめざして 3 ヶ月に 1 回開催しています。

参加者が進行、書記を担当し、参加者の思いに共感しながら自分の場合はこうしている、こんな風にしてみてもいろいろな話が出ます。「自分と同じことで悩んでいる人がいることがわかった」、「参考になった」「明日から元気でやっていこうと思う」「楽しかった」等参加しての感想が寄せられています。次回は平成 28 年 1 月 17 日（日）に京都市朱雀工房で開催します。どうぞご参加ください。



●委託職業訓練「介護サービス科」が終盤をむかえています

平成 27 年 9 月 1 日から介護職員初任者研修修了資格を得て、就労をめざす「介護サービス科」が始まりました。座学と演習が終了し、平成 27 年 11 月 16 日から高齢者福祉施設での職場実習が開始となっています。学んだことを実践し、現場での体験を得て、今後の方向性がみつけれ、就労に結びつけられることを願っています。

●ノートルダム女子大学大学祭で出店してきました

平成 27 年 10 月 24 日（土）に開催されたノートルダム女子大学大学祭に京都市朱雀工房とワークステーションかれん工房が出店させていただき、タピオカジュースを販売しました。今年は人通りの多い校門近くにブースを置いていただき、売れ行きはよかったです。利用メンバーはハロウィンの扮装をして声掛けをがんばっていました。いろいろとお世話いただいた佐藤先生、学生の皆様、ありがとうございました。



●ミレニアムライオンズクラブさま、 ご支援ありがとうございます

ミレニアムライオンズクラブの会員の方々と桂川清掃を平成 27 年 10 月 11 日（日）に行いました。秋晴れの天候の元、河原の空き缶やごみを清掃し、バーベキューをしました。ミレニアムライオンズクラブの会員様が次々に肉を焼いて持ってきてくださったり、話かけてくださったり、楽しい交流の時間が持てました。

●京都府共同募金会様、ありがとうございました

京都府共同募金会から「琳派四百年古今展」入場券助成をしていただき、10 名が細見美術館で鑑賞してきました。

豪華けんらんな作品にふれ、気分が晴れて、楽しめたと見学した利用者は感想を話していました。

●木下大サーカスを鑑賞しました

京都市を通じて京都市朱雀工房のメンバーが木下大サーカス様の招待を受け、平成 27 年 8 月 19 日、21 日にサーカスを鑑賞してきました。ホワイトライオンや空中ブランコ、オートバイショーなど、楽しみました。どうもありがとうございました。

●家族会からのお知らせ

「京のかれん」家族会は、京都光彩の会が運営している事業所を利用している、利用していたメンバーのご家族で構成しています。平成 9 年から家族相互の助け合いと精神保健福祉の向上のために活動を続けています。平成 27 年 10 月には中京区社会福祉協議会の山崎専門員、西専門員をお招きして日常生活自立支援事業について講演していただきました。わかりやすく制度の説明と実例をお話しいただきました。「金銭管理を手伝ってもらえ、親なきあとも安心できる」「利用の仕方がわかった」という感想が聞かれました。平成 27 年 12

月 5 日には忘年会をホテルサンルートで行います。皆さまのご参加をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 京都光彩の会

後援会からお礼とお願い

平素は、社会福祉法人 京都光彩の会 後援会にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

後援会は、社会福祉法人光彩の会が運営する社会福祉事業の発展のためにご協力とご支援をいただくために設けた会です。

年会費は各年度毎、下記のようになっております。ご趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記	
個人会員	一口 3,000円
団体・法人会員	一口10,000円

【編集後記】

朱雀工房・なごやかは、移転に伴う環境の変化によりやく慣れてきたところですが、拠点の確保という課題が迫っていることを考えると、少し気が重くなります。光彩だよりの編集作業をしながら、法人が担っている様々な事業のことや、職員の世代交代についてぼんやり考えていましたが、法人として転機を迎えているのは明らかだと思います。事業実施の方向性をみんなで定め、次世代につなげていくような取り組みが、今後より一層求められるように思います。私たちの法人はそんなに大きな組織ではないので、職員一人一人の意識や活動内容が事業実施状況にそのまま反映されます。責任もありますが、それがやりがいにつながるように、若い世代が感じられる風土を作っていけたらいいなと思います。（なごやか 山本）